

第4章 県政への自由意見

【集計の方法】

地方創生に関連する以下の項目からテーマを選択してもらい、「身近な地域や秋田がこうあって欲しい」などの願いや希望、夢を自由に記述してもらった。

1 自由意見の政策課題別件数

| 項番 | 項目 | 件数 |
|----|--------------|------|
| 1 | 雇用創出のための産業振興 | 353 |
| 2 | 移住・定住対策 | 223 |
| 3 | 少子化対策 | 343 |
| 4 | 新たな地域社会の形成 | 79 |
| 5 | その他 | 249 |
| | 項番記載なし | 80 |
| | 合 計 | 1327 |

2 自由意見 ※1327件のうち一部抜粋

1 雇用創出のための産業振興

- 儲かる産業ではなく、地域の中で経済が循環していく小さな産業がたくさん生まれれば、秋田は本当の意味で豊かになると思う。秋田を想い、秋田で頑張るたくさんの若者を応援するような政策を期待します。(女性/30歳代/仙北地域)
- 産業振興のためにはまず、道路鉄道等をアクセスしやすくし、運送コストを抑える対策が必要だ。中途半端な一車線高速道路や、国道を戦略的に見直していただきたい。また、工業団地等は現在、廃墟が目立っている。これはただ場所だけを与えればよいと考えた行政の責任だと感じる。インフラを見直さなければ、企業は秋田に魅力を感じるわけがない。(男性/30歳代/山本地域)
- 秋田の自然を生かした産業は、これからも推進して行って欲しい。観光を一步進んで、体験型、ゆっくり宿泊型、自然の中でのんびり過ごせる場が提供できたらと思います。(女性/50歳代/平鹿地域)
- 雇用創出のためには企業誘致が効果的だと思いますが、秋田を拠点とするには県内消費力、県内外の物流網が乏しく、この課題は大きいと考えます。特に優先すべき課題は物流網の整備ではないでしょうか。県内外だけでなく、海外へも販路を拡大し、アジア地域も含めて物流網を整備し、秋田に拠点を置くことをメリットと考えられるようなアピールをしていく必要があると思います。先端技術、ICTの活用にも目を向けなければなりません。(男性/30歳代/秋田地域)
- 地域の発展には雇用問題がとても大切！仕事、収入がなくては生きていけません。社会に貢献したい、色々な問題にも取り組みたいという気持ちはあっても、今の生活を守ることに精一杯になっています。県には土地があります。水も空気も最上級。地域産業を向上されると共に、新たな企業の誘致を進めて欲しい。(女性/50歳代/仙北地域)
- 秋田では国際教養大学など社会で即戦力となる若者を数多く育てているものの、結局それを生かす場がなく、他県へと流出している。また他県の大学等で学んだ者が帰って来られない。「本当は地元で生活したいのだけれど…」という声が聞かれるので、雇用創出が移住・定住対策にも関連して必要不可欠と考える。(女性/40歳代/平鹿地域)
- 介護サービスに関連して、介護職員の処遇改善を図り雇用を創出し、若者の地域定着を図る。ひいては新たな地域社会の形成を促進する。若者の地域定着が少子化対策となる。(男性/50歳代/仙北地域)
- バイオマスなど新技術を利用した産業の振興、秋田ならではの木材、稲、既存のものを最大限利用して欲しい。(男性/20歳代/仙北地域)
- 移住・定住対策、少子化対策として効果があるのは、生活基盤の確保が第一に挙げられると思う。人口増を目指すのならば、その分の雇用創出は必要不可欠であり、また逆に雇用創出と無関係ならば、人口増は不要である。単純に数字だけの労働者を増やすのではなく、地域に根付くような労働者が増えれば、自然と人口も改善されていくと思うので、派遣や一時雇用者だけでなく、地域成員を育てる活動に組織力を振るうべきだと考える。(男性/20歳代/秋田地域)
- 雇用創出というとよく企業誘致という言葉が出てきますが、私の住む農村部では圧倒的に第1次産業

に携わっている人が多いので、高卒後の県外流出を避けるために、家業の農家に就けるような状況をつくれればよいのではないかと思います。ただ農業は休みなしのイメージ（私だけかもしれませんが）なので、家族力が低下している今、法人化して会社として行うとか、ブランド化で農業をカッコいいと思えるイメージ戦略が欲しいです。（女性／30歳代／雄勝地域）

- 秋田ノーザンハピネットのホームアリーナ問題で、県の支援は難しいと話題になりましたが、バスケットのホームアリーナと考えると、維持費の問題等が出てくると思いますが、アーティストのコンサートや他のスポーツ大会の実施、イベント等に活用することで、アリーナを中心とした商業が成り立っていくのではないかと思います。アリーナに常にお客さんがいることで、飲食店、ホテル等にも効果があると思います。（女性／30歳代／秋田地域）
- 安価で借りられる事務所、安価なネット環境、多業種との交流ができる環境を創り出し、学生でも簡単に起業できる環境整備。IT産業の作業環境はネットさえつながっていればどこでもできるが、それを商売とするためには東京などの大学と連携し、人口が多い都市部に事務所を置く必要があるが、空き家や廃校などを小部屋に仕切って活用した県営の貸事務所などの起業用の事務所環境を整備し、新しい知恵の創造を促す。勿論、起業するのは学生だけではないので、社会人などにも「秋田県独自特区」としての県民税半額、自動車税補助などの対策もあればいいのでは。（男性／50歳代／秋田地域）
- 毎年4月になるとたくさんの若い人達（高校卒業、大学卒業した人など）が、この秋田を離れてしまいます。残念でなりません。それはこの秋田に雇用環境が整っていない為、若者が安心して働ける職場が少ないからだと思います。娯楽施設ももちろん増やしてもらい、みんなこの秋田にいて生活できるようにしてほしいと思います。魅力のある農業～工場など発信して、もっと働ける職場を多くしてぜひ若者達をひきつけて欲しいですね。（女性／60歳代／仙北地域）
- 定職のない状態（地域）なのに移住・定住しようとする人はいない。同じように、定職がなく収入の低い状態で（乳幼児の死亡率は高くないのだから）無理してまで子どもを何人も産むことはできない。地方が消滅しないよう取り組むとすれば、雇用政策を最優先にするべき。眠っている耕作放棄地や休耕田を復活させ、豊かな大地を守ってくれる若者がどんどん出て来て欲しい。地元の資源を活用した産業といえば農業が最も適していると思う。美しい景観、雇用の受け皿として、ぜひもう一歩前へ育てていただきたい。（女性／50歳代／仙北地域）
- 少子化の中で、親はがんばり子育てし、小・中・高校そして大学へと進学させているが、社会の景気の良し悪しのめぐり合わせもあり、我が家では子どもも親も県内就職を望んでも就職できず、残念だった。製造業が極端に少なくなったことも大きいとは思いますが、県内企業の受け皿が小さい。また、Aターンに対しての企業の理解も情報も、もっと大きくなって欲しいと願う。少子高齢化への対策としては雇用にもっと県として力を注いでいただきたい。（女性／50歳代／由利地域）
- 自然が豊かで、土地面積も広く、持ち家率も高い。物価も安く暮らしやすいと思う。なのになぜ、人口減になるのか原因を考える必要がある。若者の給料ベースが低く、希望する職種がなく、県外に出ていく。すると残された親も一緒に出ていくという例も多い。雇用の場の確保、優良企業を増やす。いくら雇用の場といっても、アルバイト的なフリーターばかりでは、子育てにはつながらない。思いきって、中学校までは医療費無料といった魅力的な政策が必要だ。それから高齢化になっていくと、運転しなくても好きなところに行ける交通網の整備が必要。特に冬季は融雪されていると、とても歩きやすい。駅前、千秋公園前など、自然のエネルギーを使って、融雪道路の拡充をして欲しい。（女性／50歳代／秋田地域）
- 秋田の自然の豊かさ、景観は素晴らしいものだと思うが、人口減少の原因となっているともいえる。

東京や大阪にも観光資源はあるが、それに対する力の入れ方、完成度が高いため、外国人等の観光客はより魅力を感じ、足を運ぶのだと思う。県内に進出してくる企業はサービス業がメインであるため、県内に残りたいと考える若者がいても結果として、やれる仕事の種類が限定されるため、どんどん流出していると思う。プロのスポーツチームが近年できているのはプラス要素だが、まだ観光地としての魅力は足りないと思う。(男性/30歳代/山本地域)

- 秋田だからこそその特性を生かした産業の発展を優先するのも分かるが、その枠にとらわれずもっと沢山の挑戦、極論を言えば都会化を進めた方が住みよい町、県になり、人口が増え、最終的には秋田県経済の発展に繋がるのではないかと感じる。まず、経済的な地盤を固めてからの方が、農業、医療、観光産業の発展もスムーズに進むと思う。秋田の将来の為にもまず若者が好む、利便性の高い町づくり、雇用の創出が急務だと思う。観光客等の単発の収入のみでは続かないと思う。(男性/30歳代/山本地域)
- 今年息子が秋田ではなく東京に就職をしたのですが、同級生の子達も、秋田に就職したいと思っても、希望する仕事もなく、県外に出ているようです。若い人達が県内にとどまってくれば、結婚・出産が増えると思うので、是非、産業振興に力を入れて欲しい。転勤でこられる方も秋田は住みやすいと言ってくれるので。テレビの番組で全国で消失する可能性がある県の1位が秋田でした。とてもさみしかったので、産業振興→結婚、出産→少子化対策と、上手くつながって欲しいです。(女性/40歳代/秋田地域)
- 秋田の売りである自然・農業への支援を厚くした方がよい。特に、林業は農業に比べて注目されないが、重要だと思う。また、過疎・高齢化で荒地が多いので、取り壊し、整備(何かを建てるのではなく自然にかえす方向で)して、県全体もコンパクトシティを目指して欲しい。建物・人が分散すると維持費もかかるし、インフラも大変。これから人口がどんどん減っていくので、それを見越して町を山へかえしていく作業をした方がよいと思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 最近、小坂が「てっちゃん達」の間で盛り上がっていますね。その規模を拡大して、巨大テーマパークなんかができたら雇用創出・産業振興等の起爆剤になるのではないのでしょうか。(女性/40歳代/秋田地域)
- 産・官・学の意見交換、結びつきの場を多く持ち、新分野を開拓すること。国の政策の後追いばかりでなく秋田独自の魅力ある分野を切り拓くことが第一と思う。行政は使うことのプロでなく稼ぐことのプロに変化して欲しい。動きが見えるようになれば黙っていても人が寄ってきます。(男性/70歳以上/秋田地域)
- 秋田県の農業生産額はピーク時の6割。稲作依存度が高く、東北でも5位?だったのでしょうか。本県の食料製造品出荷額は全国44位。同じ米どころ新潟とは比べものにならない低さである。6次産業化への取組、支援等が急がれると思います。せっかくの生産県なのだから。(男性/50歳代/由利地域)
- 外旭川地区にイオンができるのはいい事だと思います。新たな雇用もできるし、消費も上がり、楽しいイベントや老若男女が楽しめる場所は民間の企業にまかせた方がいい!コンパクトシティは無理だと思う。今はお年寄りもおしゃれをしたいし、おいしい物も食べたいし、これから楽しく明るい秋田にするには、郊外のショッピングセンターは必要だと思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 秋田には農林水産業などの他に優る産業があります。これを大切に、維持し、発展させていく方法をぜひ考え、実現して欲しいと願っています。地方であることのよさが輝くようであって欲しいです。産業と雇用が魅力的でないと、我が子にも“秋田へ”とは言えません。(女性/50歳代/秋田地域)

- 人口減少をくい止めるためには魅力ある秋田でなければ若い人は夢を都会に求めるのでは。そのためにはまず働く雇用を充実させる。例えば製薬会社（工場）、化粧品（工場）、車関連の企業など上場企業の誘致。（秋田市を中心とした）都会にあって地方（東北）にないものを秋田に造る。わざわざ都会に就職せずとも秋田で十分楽しめる。幸いにして災害が比較的少ない秋田をもっとPRするべきでは。（女性／50歳代／秋田地域）
- 志を持ったI・Uターン者が推進となり、高齢過疎化の小さな村に特産品の開発などの産業創出の息吹をもたらせられないものでしょうか。いま「6次産業化」が話題になっておりますが、実際にすべてを一人でこなすことは難しく、ただでさえ作物の世話を忙しい農家が加工はともかく市場調査・営業・販売にまで手を広げるのは容易ではない。また、ネットの時代と言われますがホームページを作り、自分で管理・販売までできる人は少ないのではないのでしょうか。こうした部分を行政が支援し、また補助金などを出せば終わりではなく、立ち上げた当事者の継続的なコントロールまで自分の仕事だという仕事意識を持たないと、補助金の無駄遣いになるのではないのでしょうか。また、営業部隊に行政側が入っていると市場の信頼度も違ってくると思います。（男性／50歳代／鹿角地域）
- 十分に本県は魅力的である。では、なぜ、人口が減少するのか。「ふるさとキャリア教育」はもちろん、若者が都会にあこがれるように、本県自体に夢を持てるようなまちづくりをして欲しい。（男性／40歳代／北秋田地域）
- 秋田県は、空気も良く緑も多く大変環境は恵まれております。今、米の価格が更に下落しようとしています。米ばかりでなく、空気のきれいな漢方薬栽培県にしたらどうでしょうか。少し時間はかかるかもしれませんがそうすると雇用も生まれ、会社を設立し1次、2次、3次産業とつながると思います。是非漢方薬県にして下さい。中国から輸入が少なくなり汚染したのが入らなく安心できます。若者の雇用も生まれ、若者も定着し人口増につながると思います。（時間がかかるかもしれませんが）検討をお願い致します。（女性／60歳代／秋田地域）
- 農業を企業化する。休眠農地の活用。個人で農業を行うと、農機具や肥料などの経費が負担となるが企業化することによりコストダウンが図れる。企業化すると6次産業化する必要が生じるので一石二鳥である。人手不足、後継者問題も解決可能になると思う。（男性／50歳代／北秋田地域）
- 雪国秋田に暮らす県民にとって雪はマイナスイメージの方が強い。しかし、この雪を利用し、雇用創出ができないものか…。例えば除雪作業と集雪作業を一緒に行い、何かに活用する工業。どこかの県では、倉庫の温度、空調管理に役立てているとか。年中、イベントへの雪の出前とか。どうだろうか。（女性／40歳代／秋田地域）
- 私は今年2月にUターンしたものです。主なスキルはIT（汎用機）と英語です。しかし、再就職には苦労しました。上記2つを兼ねた求人は皆無であり、主に県外へ職を求めるしかない状況です。幸いに派遣社員の職を秋田市内で得ましたが、定住できるか、不安を抱えています。私も含めて、転出者の多くに共通する点は、仕事を通じて自己実現する場が、県内には乏しいことだと思います。「基本方針」を拝見しましたが、グローバル人材を育てることには賛成ですが、その受け皿となる職場が乏しいことが問題です。ハローワークの求人で「英語」などで検索しても数件しか表示されません。「人材育成」と「産業振興」は両輪で進めるべきだと思います。（男性／40歳代／秋田地域）
- 私は小売業で働いていますが、秋田にはおいしい食品（農業・水産・酒etc）がたくさんあります。しかしそれを加工して付加価値を高くした商品に加工する事業所が少ないのが現状です。県外で作ったものを持ってくるのでは利益も魅力もなくなります。地元産品を地元で加工、販売できる仕組づくりをお願いします。また循環型農業による安心・安全な農産物の生産体制づくりも進めてもらいたい

と思います。捨てる物から肥料をつくり、生産・販売する自立した農家さんへの支援も行ってもらいたいと思います。曲がったきゅうりや穴のあいたほうれん草など見た目よりも鮮度・味のよいものを安く買える仕組みも必要です。コストを抑えた儲かる農業の推進もお願いします。(男性/40歳代/雄勝地域)

●全国の道の駅の元気さには驚いております。秋田も農業国。農業も角度を変えればすごいパワーのあるものかもしれません。しかし、すべて競争社会。どこよりもおいしい食べ物、めずらしいものが人気となりますね。それにコマーシャル力。秋田はとてもおいしい野菜やくだものがあるのにコマーシャル力に欠けるねと言われます。おいしい物をいっぱい作り秋田ならではの雇用創出できたらいいなと思います。(女性/60歳代/由利地域)

●毎朝通勤で秋田駅に8時半頃到着します。電車の中も、降りてからも人口流出を感じない人の数です。ただ良く観察しますと半数が通勤らしき人、半数は専門学生。専門学校も雇用創出のための産業と言えるのかも。ならばバラバラな場所にある専門学校を秋田駅周辺の一か所に集め、ジャンルを増やし実践的若さあふれるプレジネスタウンを作ってはどうか。いくつかの職種を増やし知識や接客、創造性を刺激しあい今まで秋田になかった産業を、若者たちの化学反応でつくっていただきたい。(女性/50歳代/秋田地域)

●一頃(10年~20年前)それ以上前から、誘致企業が何社も来て、雇用が生まれて飲食業もだいぶうるおいましたが、今は寂しいかぎりです。地場産業、地域農産物の県外へのセールスにもっと県として、力を入れてもらいたいと思います。(男性/50歳代/山本地域)

●秋田大学と国際教養大学を核とした企画誘致。資源・理工と特定分野の産業を大手企画や海外を視野に入れて、若い人材を確保できる様な取組をして欲しいと思います。それと同様に若者が楽しめる施設を増やす、例えばプロバスケットでの県民一体化(アリーナづくり)やカジノへの積極的な取組などどうでしょう。秋田のイメージを変える取組が必要だと思います。(男性/50歳代/雄勝地域)

●日本の人口減少と、世界の人口増加というトレンドを踏まえ、秋田が日本と世界に貢献できる産業とは何か。秋田が持つポテンシャルに立脚した産業振興が必要ではないでしょうか。本県の風土に合致しない「移入産業」が、景況などの我々の意思によらず牙をむき、雇用不安を生んだ教訓を忘れてはならないと思います。(男性/30歳代/秋田地域)

●子どもを産み、伸び伸びと育てやすい環境はある程度整っているが、子どもがいざ社会人になったとき、働く職場の選択肢の数が圧倒的に少ない。若年期と老年期は暮らしやすい県だと思うが、働き盛りの年代にとってはメリットのない地域となってしまっている。少子化と言っても1家庭当たりの子どもの数は、自分が子どものときでも通常1~2名が普通だった。1家庭当たりの子どもの数が減少しているのではなく、その親の世代が条件のよい労働の場がないために、他所へ出て行ってしまっているのではないか。雇用創出、それも十分な収入が確保されない限り、根本問題は解決されない。(男性/50歳代/秋田地域)

●現状の地域社会の多くは、古くからの企業ばかりで新しい取組や事業を開拓していく動きが非常に少ない。また新規事業として有効なアイデアを持ってはいるが、自身に起業資金がなかったりと、動けずにいる若者達を支援する動きもない為、負の連鎖がいつまでも続く…。200~300万程の起業資金融資を行うことと、20~40代までの年齢層における起業支援団体を作って、新しい雇用の可能性を広げ、秋田県内の若者の人口を増加につなげる!!(男性/30歳代/仙北地域)

●コロコロと政策を変えず、息の長い支援をして欲しい。産業振興は一朝一夕ではできないはず。トッ

ブが明確な方針を持ち、成果が出るまで支援を続けることが重要。(女性/40歳代/山本地域)

- 大企業誘致が理想だが、今現在秋田県内でがんばっている既存企業への支援がもっと必要だと思う。それが雇用創出につながっていく。各種補助金等があるが、書類作成等に時間や労力がかなり費やされる。本当に必要としている企業へなかなか補助金がまわっていないのが現実のように感じる。(男性/30歳代/由利地域)
- 水産加工・農産物の加工所をつくり、日本の一大食料生産県をめざす。(性別不明/年代不明/居住地域不明)
- 起業支援を実現させて欲しい。現在、若い人が働きたいと思う環境が秋田には無いと思う。無ければつくるしかない。そう思っている人達への支援がもっと必要。(女性/30歳代/秋田地域)
- 秋田の特産の海産物・野菜等の販路を拡大し、また、独自のブランド商品を打ち出す事で、若者の雇用を作り出して欲しい。そして、日本だけではなく、世界にも秋田の良さを知ってもらう為、観光業にも力を入れ、秋田にたくさんの人々が訪れて欲しい。(女性/20歳代/山本地域)
- ふるさと納税の充実。地場の良い物を提供して、地元の企業を潤わせる。(男性/50歳代/秋田地域)
- 老人に県外からでも移住してもらうために、介護老人保健施設、映画、買い物施設、病院、運動場、バスを整備して、大きな(中途半端なものではなく)老人タウン計画(例えば雪が少ない由利本荘市あたり)をしていくのがいいと思う。面会者のために、交通網の整備もするなど。全国から老人が移住しやすいようにする。国のお金を使って計画し、中途半端では借金になると思う。(女性/30歳代/仙北地域)
- 私が住んでいる市においても、他の市町村においても、若い人向けの雇用先というのは他県に比べて少ないように感じる。秋田県は上場企業が4社しかなく、中小企業の数由市によっては数えるほどしかないため、県全体の様々な問題に拍車をかけていると思う。多くの若者が都会に憧れるのも無理はない。私はまだ学生であるので、将来の就職先が決まっているのかという不安は、いつまでも拭えない。秋田県で起業したり、開店したりというのはとても難しい。東京のように口コミで広がることはないし、そもそも人口が少ないからだ。多くの人々がにぎわいをつくるためには、広告が多く必要だ。そのため、私は産業振興のために「広告料の減額」を訴えたい。いつか先日の東北六魂祭のような人混みが、常にできるような地方都市の創出を期待したい。というか、私たち若い世代でつくっていきたい。(男性/10歳代/秋田地域)

2 移住・定住対策

- まず大切なのは、県民が秋田にどれほどの魅力を感じているのか。どれだけ住みやすいと感じているのが大事だと思います。大好きな秋田で子どもも産み育て、雇用も充実し、医療サービスもしっかりしていれば秋田を出ようとは思わないはずです。県外、国外の人達(若者じゃなくても)が秋田の魅力を感じ、今の秋田の活動、もしくは新しいビジネスが生まれるような地域社会の活性が生まれて欲しいです。2年ほど前に秋田に帰ってきましたが、私は戻って来れて良かったと思っています。(女性/30歳代/秋田地域)
- 大きい病院があっても医者不足の為、今住んでいる所を出て、病院・医者がきちんとしている所に住みたいと思う時がある。具合が悪くなったら、隣の市(医者・病院がきちんとしている)まで行って

救急車を呼ばないと、生きて帰ってこれないだろうと話している時もある。(男性/40歳代/北秋田地域)

- 交通面や生活する上で必要な物がすぐに手に入らないとか、楽しみが(娯楽が)少ないなどの理由でせっかく県外から移住された方が引っ越すという現状を何度も見てきています。「自家用車がないと移動するのも困難な県」というレッテルをつけられないためにも、定住してもらえるような交通アクセスを考えて検討していただけると、移住、定住以外の事も一つひとつつながってくるのではと思う。(女性/40歳代/由利地域)
- 私は他府県から秋田に来ましたが、秋田は環境も人柄も素晴らしいところだと思います。そのようなところも、もっと外に向けて積極的にアピールして欲しいです。とてももったいなく思っています。例えば秋田以外の46都道府県を回って“秋田まるっとキャンペーン”みたいな、秋田の魅力を知ってもらうべくイベントを行ったり、(すでに実施されているかもしれませんが)他県に“秋田おもてなし団”を派遣するなど。(女性/30歳代/由利地域)
- 都会から移住したい人、帰りたい人はたくさんいると思いますが、定住となるとハードルが高いように思います。一年の半分は秋田で暮らせるようなシステムがあっても面白いと思います。(まだまだ元気な年金生活の人や、フリーで仕事をしている人など)(女性/40歳代/鹿角地域)
- 秋田県は自然災害が少なく、環境は非常に良いと思います。自分の住んでいる所では仕事はそれなりにあると言えますが、むしろ人手が不足しています。雪の量が県内でも多く、住みにくいことや、県内ではあまり良いイメージがないということがあると思います。県外の方にもっとイメージアップを図れば良いと思います。(女性/30歳代/由利地域)
- 秋田は田舎で何もないと地元の人には思っているのですが、人口減少のために県外から移住したい人に対して、地元の人達の意見や住んで欲しい地域のメリット、デメリット、秋田に住んでからの仕事の提供や継続工夫などを伝えてあげないと、秋田移住の良さが伝わらないと思う。“住まい”も大事だが、住まいの周辺の情報が必要だと思う。(女性/20歳代/仙北地域)
- 生まれは秋田だが、幼稚園まで関東圏におり、小学校入学時に秋田に戻ってきたが、あまり水が合わなかった。転入者(特に子ども、小学生~高校生)に対してのアンケート、聞き取り調査等を実施して、客観的な視点を増やすことも重要だと思う。「内輪」のつながり重視は暮らしづらい。今ではだいぶ慣れたが、決して定住したいと思える県ではない。県の愛着度合や住みにくさ度合など、ネット上では拡散されている。ネット情報の鵜呑みは困るけど、参考にはなると思っています。「外」からの人・情報を生かせる自治体になることを願います。(女性/30歳代/秋田地域)
- 中心部にクオリティーの高い高齢者のための施設を作り、都心または県外の富裕層にアピールして、終の住家として移住してもらおう。老人が安心して余生を過ごせるような環境整備をして高齢者に優しい県であることを宣伝。それにより雇用も促進、お金を持っている世代なのである程度の消費にもつながると思う。(女性/40歳代/秋田地域)
- 先頃、五城目町で古民家を再生し、全国各地の希望者の“帰れる田舎”を提唱したご夫婦がいました。こういう動きを全県に推奨するといい。県外から来た方々のアイデアは秋田県人にもないものが多いと感じます。結果を恐れず転入手続の際に窓口で新提案があれば応援してもらいたいです。高齢化に伴い空き家が増え、コンビニラッシュ、介護施設が地元の基幹産業というのはちょっと不安。最近感じるのは“町内”の雰囲気が高齢化で若い人たちにおんぶにだっこのようになってきていることです。うっとうしくなるか、心地よくなるかギリギリのところなので、新しく来てくれた人たちには(増やした

町内には)何か利点があればよいと思います。(女性/60歳代/秋田地域)

- 県内で結婚・出産というのには限界があるので、都市部からの子育て世代の移住を重点的に募集すべき。秋田県は、自然がすばらしい、食べ物はおいしい、水はキレイ、街の人は子どもにやさしいし、何より学力が全国トップクラスである。自分の子どもを伸び伸びと育てたい若い人は、秋田に魅力を感じると思うので、そこを売りにして「子育てするなら秋田で」的なキャッチコピーで移住を勧めたらどうか。(女性/30歳代/秋田地域)
- ノーザンハピネッツが活躍しているので、県外のファンを増やし、秋田に試合を見に来て、移住してもらおう。スポーツでなくても秋田の何かのファンを増やせば住んでみたいと思う人が増えるのでは。余っている土地を格安で提供する。作家など場所を選ばない職を持つてる人をねらう。(女性/20歳代/秋田地域)
- エネルギーのある若者達が来たいと思えるような環境づくり、またそれを発信する方法の改善。ダンス、スケート、スノーボード等、スポーツカルチャーの発展に伴うスターの育成。他県に無い位に魅力のある県になって欲しい。(男性/30歳代/北秋田地域)
- 人口減の問題。同じ東北でも、山形県は緩やかな減少傾向である。秋田県を存続させていくために、県も県民も、他県の取組を参考にしながら、真剣に対応したいものである。我家では、在京の息子夫婦に、退職後、秋田に住み自宅を空き家にしないよう、話し合っている。県民一人ひとりの具体的な取組も必要と思う。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 現在独居で、首都圏に住む息子家族が私を心配してくれますが、住居(自宅)はあるものの、夫婦の就職と、孫の進学に将来的に不安を覚え、強くUターンを言えない。老齢となり、自身の健康また、運転不能となった際の通院、買物、冬の除雪も心配である。(女性/70歳以上/由利地域)
- 東京圏からの移住等が言われているが、受け入れをする場合には先のことを考えて対応(適応)できるようにしっかりとした計画をして欲しい。移住する側よりも受け入れ側は何倍もの力が必要になると思われる。(男性/50歳代/秋田地域)
- 今現在住んでいる人に対して、思いきった政策をつくり、住みやすい、仕事がしやすい、県外に出ていきたくないと思えるような対策を考えていただきたいです。外から呼び戻すことよりもまず在住人のことを。(女性/60歳代/秋田地域)
- 秋田に来て40年以上になります。県外業者に勤めておりました。地元企業優先は分りますが同業者は秋田では仕事にならないとの事で数十年前にほとんど撤退しました。地元だけでは秋田県の活性化にはならないと思います。方法はともかく秋田県に人を入れることだと思います。人口も少なくなっていく中で40年前と変っていないような気がします。仕事の無い所に移住、定住対策その他全項目、地方創生にはつながらないと思います。(男性/60歳代/秋田地域)
- 移住・定住する為に、1番気にする事は医療です。都会では最新の医療を受けられる。(今の時代物はネット通販等で手に入れる事はできる)医療を充実させることで、移住する人が安心して生活できる。医療に携わる方々の確保も大切(福祉も同様)。秋田の中にも賃金の格差があるのは問題です。(女性/60歳代/雄勝地域)
- 神奈川県からよりよい子育て環境を求め、全国数か所を検討した結果、秋田県を選んで移住して、1年になります。人々の心は温かく、すばらしい資源・文化にめぐまれながら、全国的には印象の薄い

県であると思っております。とても残念です。移住者向けのHPなどはとてもすばらしく「あきたびじょん」やその他、アプローチ方法がとても洗練されていて、おしゃれな印象があります。ただし、実際に住んでみて、その広報ほどにはスマートになされていないことが多く、素晴らしいものがある県だけにとても残念に思います。県民の方々が、強く深く愛県心を持っていらっしゃることはよく感じますが、それを他県に向けて、発信することがあまりないのでは。謙虚な県民性だとも思いますが、もしかしたらその気持ちを表す場面や、誇れるシチュエーションが少ないせいかとも思われます。どちらかというと、心の中では秋田大好きと思いつつ、なぜ、関東から秋田なんか？という発言をする方が多く、もったいないなあ〜と常々感じます。県民に対するマスコミ戦略も必要なのでは？秋田がこんなに素晴らしい所なのだ、みんな秋田に来て、見て、感じて！！と声を大にして言える県民を育てることが大切だと思います。(女性／40歳代／秋田地域)

- 私は今年秋田県に移住してきた者です。移住のきっかけは、妻が秋田県出身だったという事で、過去に2度秋田県に来て秋田の豊かな自然と人間の良さにひかれ、関東で一生を過ごすのはつまらないと思い移住しました。秋田県は良い所だと心から思っていますが、前に出ない県民性なのか、関東で「秋田県」を知る機会は限りなく低いです。本当に移住・定住を望むのであれば、もっと本気になって取り組まないと、ただの自己満足で終わってしまうと思います。要は「アピールが足りない」と思います。ただ、そんな「秋田県」を私自身は好きなので、これからも長い目で頑張ってください。(男性／30歳代／北秋田地域)
- テレビ等で見るような、首都圏からのリタイヤ（定年後）の移住者に支援は不要である。介護費用がかかる。少子高齢対策の具体例として、県が農家から米を買い取り、子育て世帯からの申請により無料で提供してはどうか。(男性／30歳代／由利地域)
- 観光施設で商いをしてはいますが、当地を訪れるからには何らかの魅力を感じてくれたからにはほかなりません。県内観光地に「移住パンフレット」を置いてみたらいかがでしょう。(男性／50歳代／仙北地域)
- 例えば、今はネット社会なのでIT企業や、事務所があれば仕事ができる会社等を県内に誘致し、移住を促進、また県内の大学生、都会の大学へ進学した子どもたちを呼び戻せるような施策は考えられないのでしょうか。大学を卒業したものの地元へ戻れない子どもたち、呼び戻せない親たちを多く見えています。子がいるものの都会で就職し、家庭を持ち、やがて地元にはふたり暮らしの夫婦が残されるということが身の回りで多く見られます。戻りたい、帰りたいという気持ちが持てる秋田県になって欲しい。(女性／50歳代／山本地域)
- 大都市圏から秋田へ高齢者の移住・定住を進め、秋田県を高齢者のユートピアとしてみてはどうでしょうか。また、そのためには医療・福祉のベンチャー企業を集め、秋田版シリコンバレーをつくる必要があると考えます。(女性／50歳代／秋田地域)
- 都会から地方への移住促進は、今や地方間競争と言えるのではないのでしょうか。だからと言って補助金で移住者を呼び込もうとすることは、必要以上に行くことはなく、慎ましくあるべきではないでしょうか。秋田県民はカネで人を呼び込む、浅はかな県民ではありません。秋田の現状を受け入れてくれて、それでもこの地で住みたい、仕事したい、就農したい、起業したいと思ってくれる方の移住のきっかけをサポートすることが大事と考えます。移住者の過度な優遇は、ネイティブ県民の理解が不可欠です。(男性／30歳代／秋田地域)
- 秋田に興味がある人に短期間（数日～数カ月）体験生活をして関心を持ってもらえるようにする。移住、定住先での雇用の確保を優先的にする。移住、定住先の住居の確保（公営住宅を優先的に、家賃

を数年間安くする等)する。移住、定住先の医療、子育てサービスの充実といったことを行えば、県外からの移住、定住者が増加すると思う。(女性/30歳代/秋田地域)

- 病院でポリープ等の色々な検査を他県に送って、検査結果を待ちますが、秋田県でもそのような機関(病理検査)があれば安定した雇用につながると思います。(性別不明/年代不明/居住地域不明)
- 高校卒業後、県外大学への進学が人口流出を招いているように思われる。地元の魅力ある大学や企業を。また、県民優先で合格できる人数枠をアップさせるべき。高校も産業に関連した学科が減らされ、むやみに進学(県外大学)をあおっているのではないか。(女性/40歳代/秋田地域)

3 少子化対策

- 私は子育て世代です。友人やいわゆるママ友との会話の中で、“次の親世代”への子育てに関する情報を与えられる機会がたくさんあればと感じています。(私の時はなかったように思うが、今はあるのかもしれませんが)「もっと早く子どもを産めばよかった」、「30歳過ぎてからの出産が大変なんて、知らなかった」とよく耳にします。大学進学が当たり前になりつつありますが、晩婚化対策は、中・高生への情報発信も大切ではないかと考えます。(女性/30歳代/北秋田地域)
- 「子どもを産め、産め」と世の中がうるさい時代ですが、不妊治療についての助成がもっとあってもいいと思います。特定不妊治療の制度は分かりますが、一般不妊治療については、土地土地で違います。実際私が住む市では助成がありません。体外受精等の高度治療まではいかないが、やはり毎月出費がかかり、踏み切れないでいます。友人達もそうです。子どもは欲しいし、社会貢献したいですが、できない悲しみがあります。また少子化が進み、今後の世の中に不安も感じています。秋田が先駆けとなれるよう、助成について見直して下さい。ムダな税金ではないと思います。お願いします。(女性/20歳代/雄勝地域)
- 私も40代で遅い結婚・出産をしましたが、周りには結婚したくても出会いがなくできない、子どもが欲しいのに経済的に無理など、あきらめている人がたくさんいます。県外に出たが、秋田に帰ってきたい。でも仕事がないなど、環境が整っていれば人口を増やすこともできると思います。(女性/40歳代/秋田地域)
- 子どもを産んで育てるには秋田県は自然が豊かで人柄も良く、とても魅力的な地域だと思います。幼少期に体を使って遊べる場所(豊かな自然環境を活用)が増え、実体験できる機会があれば良いと思います。また、高等教育が不十分だと感じるので、豊かな学力を身につけるため、質の高い教育を受けさせてあげられれば良いです。一度、県外に子どもたちが出て、経験を積んで、自分達子育て世代になった時、ふるさと秋田に戻って子どもを育て、地域のために活躍してくれることを望みます。(女性/30歳代/雄勝地域)
- 高齢者には手厚いサービスを提供しているが、子育て世代にはそれほど手厚い制度になっていない。いっそ高校生まで教育費や医療費を無料にするくらいのことやってみたらどうなんだろうか。思い切った施策の転換が必要なのではないかと思う。(男性/40歳代/秋田地域)
- 少子化の根幹にあるのは、現在の60歳以上の団塊世代と思う。親が秋田に住みたいと思わないので、子どもを県外(都会)に出したいと考えられる(自分もそう)。しかし今は秋田は良い所(住みやすい)と思っている。少子化対策の第1歩は、こうした親世代に早く秋田の魅力に気付いてもらうこと。外に対して、格安の宿泊券を販売するのではなく、在住者の若い人達に優先的配付すべきではないか。

(男性／50 歳代／秋田地域)

- 若い世代が減ってくるのは間違いなく進むと思うし、少子化もなかなか改善しないと思う。だからこれからの秋田は、現状を考えて人口が減少しても、高齢者と若者がいかによく共存できる環境をつくる方が大切だと思う。人口が減るから、子どもがいないからが悪いのではなく、じゃあどうすればそんな中で秋田は良い県だと、他県の人を感じられる県づくりをするべきだと思う。定年の年齢も延びてきて、社会でも若い世代と50代・60代の世代がうまく機能できる社会づくりが必要だと思う。

(男性／30 歳代／秋田地域)

- 子ども連れで楽しめる施設がもっと数多くあると嬉しいです。「ふれあいカード」も発案された時より、サービスが減ってきたように感じます。実際ある店舗では店員さんが、カードの内容・存在を把握できていませんでした。(女性／30 歳代／山本地域)

- 少子化対策と言って議論しているのは、男性が多いと思いました。女性の意見を取り入れていますか？お金を支給してくれるのはありがたいですが、秋田県には子どもを連れて遊びに行くところが少なすぎます。山形県や岩手県のそういった施設をご覧になったことはありますか？東根市の「あそびアランド」や、「子どもの森」など、子どもがのびのび遊べる所が秋田にはなさすぎます。これではいくら結婚して子どもを産んでもらっても、出て行ってしまいますよ。私の周りの方達も、週末には他県まで足を延ばしています。秋田にそういう所がないからです。もっと周りにも目を向けてみてください。

(女性／30 歳代／平鹿地域)

- 少子化ということで子育て支援をしているが、保育士の賃金の低さや仕事の多忙さで、保育士が不足しています。新しい人材が来ない為に、「辞めたい」、「子どもを産みたい」と思っている保育士の願いが多くつぶされています。施設の充実もそうですが、その施設で“働いている”職員の願いをつぶさないような配慮もしてください。施設内に不満などがあれば、その施設の受け入れや保育サービスも充実しないと思います。(女性／20 歳代／秋田地域)

- 女性の社会進出、核家族化で、少子化はやむを得ないと思います。いくらお金の支援があっても、私は子ども(3人目)をもう1人もうけようとは思いません。やはりあとは未婚者の結婚支援でしょう。周囲では高齢の父母に40～50代の未婚者の3人家族がよく見られます。最近、行政の出会いの場のイベントをよく見かけますが、自分だったらわざわざ婚活イベントに行くのは恥ずかしいので、それよりなら20～40代くらいの運動教室とか(健康増進にもつながる)サークル活動の支援を行政がやれば参加しやすいのにと 생각합니다。それだと必然的に趣味も合いそうだし。(女性／30 歳代／雄勝地域)

- 児童会館や、子育て施設(アルヴェなど)は充実していると思いますが、小さな子どもが遊べる遊具付きの公園(無料で気軽に)があまりない事が気になっています。子ども達がのびのびと体を使いながら楽しめる場所があればより良いです。(フィールドアスレチックのような)(女性／20 歳代／秋田地域)

- 秋田県では都会の地域と比べて共働きは昔から多いと感じています。自分の周りではそうでしたので、むしろ支援が足りないと言う方の言い分がよく分かりません。現在は昔に比べ、学校行事への参加など、子どもに対する手間が増えたように感じます。金銭的な支援というよりは、大人が一丸となって子ども達を育てる体制が必要なのではないでしょうか。(女性／30 歳代／由利地域)

- 少子化対策と話しているわりに、子育てしている人には何にも心に響かないと思います。お金ばかりがかかり、先が見えないからです。子どもを増やすことだけが先走っていて、今子どもを育てている

人達への支援のことも考えて欲しいです。(女性/30歳代/秋田地域)

- 安心して子どもを産み、育てることのできる秋田になって欲しいです。両親共に働いていれば、なかなか子どもを産めず(退職など)、産んだとしても病気などで休む回数など多いと会社に居づらいなど、保育所・病児保育などの設備や、会社などの意識改革など、何人産んでも皆健康で元気に育てられる様な援助などもっと手厚くして、もっと秋田が発展すればいいと思います。(女性/40歳代/由利地域)
- ベビーウェーブアクション等の施策はありますが、効果がいまひとつ実感できません。女性が仕事をしつつ、子育てできる優しい施策、やはり保育を充実して欲しい。(女性/50歳代/秋田地域)
- 少子化といえども、保育所には思うように入所できずにいるのが現実。第一、保育士の仕事内容がとても大変だと感じる。学力の全国トップの本県の根本的な所の乳幼児保育の実態を知って欲しい。教諭の皆さんは「保育士がこんなに大変な事してるんだ」と言っていると聞きました。子どもに良い環境を与えてあげ、豊かな心身をはぐくんで欲しい。(女性/50歳代/仙北地域)
- 雇用問題とも重なるのですが、私の住む地域ではパートや臨時雇用が多く、妊娠・出産となると辞職(強制的に退職)のケースがほとんどです。産後も0歳~2歳児の保育所への入所は難しく、特に年度途中での入所は不可能に近いです。祖父母にあたる世代も若く、仕事を持っているため、子どもを見てもらうこともできず、就労したくてもできない状況です。待機児童は都会のことと思っていましたが、秋田でもよく聞く話です。子育て環境の整備と女性の正規雇用の促進などが少しでも改善されていかないと、出生率は伸びないのでは…と思います。(女性/40歳代/仙北地域)
- 子が欲しいと思っても、経済的な問題からあきらめている人も中にはいることと思います。私自身つい先日第一子を出産しました。もう2人くらいは子どもが欲しいと考えてはおりますが、現実的に考えると少し慎重になることがあります。今でも子育てに対する支援政策が行われていることは子どもを産んでよく分かりましたが、もう少し、子育て世帯への支援の充実、そして女性が子育てをしながらも働ける環境など整えて欲しいところはまだまだたくさんあるなと思います。少子化対策と言うのは簡単ですが、実際子どもがいるとたくさんのお金がかかります。お金が全てではありませんが、生活していく上でお金は大変大きな問題です。子どもがいる家庭への支援がもっと充実していけば、経済的な理由であきらめている人も前向きに考えられることと思います。(女性/20歳代/由利地域)
- 秋田県が他県に比べ子育て支援が充実しているということをメディア等を通して聞いてはいますが、実際に子育てをしていると本当に充実しているとは言いがたいです。他県で生活していないので比較はできませんし、他県はもっと大変なのかもしれません。しかし、子ども1人を育てるのは現在の支援・環境では難しいのが現状です。晩婚化していることや若者が秋田を離れてしまうことも少子化の問題ですが、本当は子どもが欲しい、もう1人欲しいと思っても産みにくい状況です。金銭的な支援や教育的な支援等今以上の充実を希望します。自分が好きな秋田県で自分の子どもを育てたいです。(女性/30歳代/秋田地域)
- 職場では育休制度があるものの、取得している人はおらず、取得しにくい現状である。この様な職場は本当にたくさんあるに違いないので、行政からの働きかけをしてもらいたい。そうでない限り今の現状は変わらないと思う。(男性/30歳代/秋田地域)
- 不妊症外来はまだまだ行きづらく、また理解も得られない。仕事を続けながらの不妊治療は困難で、ますます少子化は進んでいくと思われまます。子どもを産み育てていく女性に対して優しい環境をつ

くって欲しいと思います。また、卵子の老化による不妊について若い女性に学ぶ機会をつくって欲しい。県で卵子凍結に助成金を出し、産みたい時に産めるようになるといいと感じる。(女性/30歳代/北秋田地域)

- 秋田で出産しても、結局「里帰り出産」の人が多い気がします。子育てしやすい環境もあるのにもったいたない。もっと秋田県に魅力的な学校(大学など)や職場、遊び場が増えればと思います。国際教養大学みたいな学校が増えれば、他県の人も秋田の良さを知るきっかけになるとと思います。(女性/20歳代/秋田地域)
- 地域の学校が減り、玩具売場が小さくなるのを見ると子どもが減ったと感じます。県で男女の出会いイベントをやっていますが、結婚を前面に出すより趣味等を調査し、それを基にイベントを開いた方が出会いがあるのではないのでしょうか。(男性/30歳代/北秋田地域)
- 昔は仲人がいて、男女とも職場があり、三世代同居は当たり前であった。だから結婚も適齢期になると色々な話があり、気の合う人同士結婚できた。ところが今は社会情勢の変化により、若者たちが都会に流出し、とても結婚しにくくなった。反面、経済的には豊かでも家庭を作ることの大切さを学ぶ機会のないままに、結婚は二の次とばかり、結婚をしようという気持ちが薄れてきている。この様なことを考えると、まず第一に、家庭を築くことにつながる結婚について、早い時期に色々な場で学び、考える機会があればいい。次に“仲人の会”があれば、婚活ももっとしやすくなるのではないだろうか。ひとりでも多く結婚する人が増えることを望んでいる。若者たちの雇用の確保、また、地場産業の拡大に向けた総合的な支援で、地域経済の活性化につなげて欲しい。そうすることによって三世代同居も夢ではなくなるのでは。三世代同居から学ぶべきことが沢山あります。(女性/60歳代/雄勝地域)
- 児童扶養手当や保育所の無料化も大切ですが、お父さん、お母さんが子育てしやすい環境をもっと整えて欲しい。企業に働きかけ産休、育休を取りやすくする。出産後は元の職場に戻れる。子どもが病気をした時に、休みやすくするなどの対策をして欲しい。お父さんとお母さんがもっと子育てする時間を確保して欲しい。県民の意識が変わらないと、子どもを持つという気にはならない。お金を配ってもなかなか産まないと思います(経済支援は大切ですが)。(女性/50歳代/雄勝地域)
- 個人の能力を売りにした一部の派遣社員は別として、派遣(期間限定含む)社員化が進む職場環境下では雇用の安定性が乏しく、それが結婚への障壁になっているように感じる。ひいてはそれが出生率低下と結びついていると思う。社会人として自立できる年収が確保できるような職場の提供が大事だ。人材育成に力を注いでもその人材が流出しては元も子も無い。まだ夢や希望に溢れている若いメンバーでのプロジェクトで一考したら如何か?(男性/60歳代/秋田地域)
- アンケート調査の男女共同参画についてで、男は仕事、女は家庭で賛成に丸をしましたが、女が仕事して子どもを沢山産めとは、あまりにも矛盾してます。男が家族を充分守れる位の給料をもらえれば、女性は子どもを産んでも家で育てられるんです。少子化と男女共同参画は相反する政策です。(男性/60歳代/山本地域)
- 私も結婚し8年になりますが、子どもができません。いらないという事は思ってませんが、特に欲しいとも思ってません。子どもがいると、いたで大変、育てる自信が無い等、それに、一番は現在の生活を崩してまで、育てたいと思わないからです。不妊治療や出産、その後の生活に関する悩みを相談できる場所があれば、利用したいとも思ってます。(男性/30歳代/由利地域)
- 母親が望んでいることをもっと聞くことが一番良いと思います。的はずれなことにお金も時間も使う

ことはないと思います。声をよく聞いて、子どもを産んでも大丈夫と安心を与えて欲しいです。また、子どもの貧困も現状をくわしく調査して、大事な子どもたちの環境を整えて欲しいです。給食は無料にしても良いのではないですか？（女性／60歳代／秋田地域）

- 誰もが高収入なわけではないので、パート、アルバイトでも安心して出産でき、子育てができるような支援があればいいと思う。子どもができて、「将来大丈夫かな…」ではなく、前向きな子育てができるような県であって欲しいです。（女性／30歳代／北秋田地域）
- 今第2子が妻のお腹にいますが、やはり産婦人科が少ないと思います。高齢者に配慮したまちづくりや施設は大変良い事ですが、秋田県を創るのは「子ども」です。この県民意識調査を見ても分かるように、「子育て」に関する秋田県全体の意識が低いように思います。いままで秋田県を創ってきた高齢者を大切に、それと同じかそれ以上に、これからの秋田県を創っていく子ども・赤ちゃんに対してもっと配慮や施設作りをお願いします。このままでは、秋田県の少子化は進んでいく一方です。人がいなければ、産業だのエネルギーだの話がはじまりません。「赤ちゃん」を産み育てやすい環境を整えて欲しいと思います。（男性／30歳代／北秋田地域）
- 少子化による学校統合には反対。秋田県民らしさを大切に、伸び伸びと学べる少人数学級を維持して欲しい。ハツラツと育てる教育環境の整備を期待する。あと、不妊治療などに対する助成などにより出生率が上がるようにして欲しい。ひとり親に対する助成がめぐまれているので、離婚率が増えるのではないか。（男性／30歳代／仙北地域）
- 人口の減少が進むと、地方の町村は消滅してしまうのではないかと危機感を感じている。自分には子どもが2人いるが（2人とも高校生になってますが…）、育てやすい環境であれば、もう1人いてもよかったかなと思う。子どもを産み育てやすい環境の整備を望む。途中からは所得制限があったが、医療費無料の時期があり、大変助かった。経済的な援助は必要だと思う。「子どもは宝」、地域みんなで子どもを見守り、育てる、そんな秋田県であって欲しい。（女性／40歳代／仙北地域）
- 「2人目の壁」問題の解決への尽力を希望します。女性が働きやすい環境整備（特に病児保育の充実など）を早急にすすめて欲しい。（女性／40歳代／秋田地域）
- 少子化対策。学校を統廃合しないで20～30人学級にして地域から学校をなくさない様にする。その為に教員採用を現在よりも多くして若者を県内にとどめておく事により結婚、出産等で少子化対策に少しでもつながるのではないかと思います。又、学力で全国一位を保っている秋田県に国内留学させたらどうでしょうか。（女性／70歳以上／仙北地域）
- 金銭面での援助も重要であるが、病児保育などの援助が必要だと思う。（女性／40歳代／秋田地域）
- 若い男女とも少ない上に出会いに消極的で、出会いも求めている気がしません。結婚して子どもが欲しいと言う魅力あるイベント、しかも卒業した学校単位に連絡して、出席率を高めできれば、学生時代の男女が寄り添うのでは？（男性／50歳代／山本地域）
- 施設の整備より子育てという大切な時期の中にいる人への周りのサポートの薄さが気になる。職場の人が、子育て世帯の大変さを理解していない人が多いように思う。子どもは家庭だけで育てるものではなく、地域全体で関わるもの。企業の中でも子どもは女性が育てるものと思っている人が多くいる。子どもが病気の時など、男女共に休みが取れないようでは、子育ては成り立たないのではと思う。（女性／50歳代／由利地域）

- 子どもがいる世帯への支援が、まだ十分ではないような気がする。あきた子育てふれあいカードも、サービスの内容が乏しかったり、魅力のないものに変更されていたり、サービスを受けられることを知らなかったり（店の表示がない）あまり利用できていない。第3子以降への支援をもっと充実して欲しい。保育園などで年の離れている第3子目は、第1子と同じ扱いにされるのはどうかと思う。家庭では、年の差などは全く関係なく、第3子なのだからと思う。（女性／30歳代／由利地域）
- 赤ちゃんを連れて遊びに行ける施設（支援センターなど）には、保育士さんなどが常時いてくれて、赤ちゃんと遊んでもらったり、母親の話し相手などになってもらえるといいと思う。核家族が多いと思うので、何か行事がない限り、赤ちゃんや子どもと2人きりだと遊び方もよく分からないし、引きこもりがちになると思うので。外に出る目的がないと、子どもを産む気にならないかと。（女性／30歳代／由利地域）
- 昔は子どももそれなりにいて、子どもがいるからこそ地域や近所とのつながりも今よりあったように思う。学校の統合などもあり、地域と学校のつながりも少なくなったような気がします。また昔のように子どもがいて、近所の人たちと挨拶を交わし合うような、そういう交流が増えたらいいなという願いはあります。全国でも秋田県民の収入は低いということを知り、子どもを産みたくても正直厳しい部分もあるかと思う。難しい問題かとは思いますが、また昔のような温かな環境に戻ることができたら、うれしく思います。（女性／30歳代／北秋田地域）
- 現在5歳と3歳の子育てをしながら仕事を行っています。少子化対策といっても、妊娠して仕事を続ける事ができず退職し、幼稚園に入園すると同時に社会復帰といった状態でした。子どもがまた欲しいと望む人は沢山いますが、収入がなくなる事に対する不安が大きすぎて「産もう」という気持ちになれません。保育料の支払いも大変になるのが、とても負担です。まずは「産みたい、産もう」という環境をつくっていただきたいです。秋田県でも、中心部は充実している部分が多いですが、離れた場所だと充実しているとは考えられない。（女性／30歳代／北秋田地域）
- 保育園などの充実が言われていますが、それより出産したての母親を無理に働かせなくても、かわいい子どもとゆっくり過ごせるような支援をした方がいいと思います。母親が小さい子どもを置いて働きに出なくてもいいように、家で子どもを見ていて子育て支援金を受け取れるようにすると、母親が無理に働きに出なくても子どもと大事な時期を一緒に過ごせ、待機児童の問題もなくなります。子どもと楽しい時間を過ごせば、2人目、3人目と産む人も増えるのではないのでしょうか。（女性／40歳代／平鹿地域）
- 3人目から補助ではなく、今は1人目、2人目を最も助けるべき。やはりフランス並みの児童手当を。子ども手当を厚くし、親の仕事があれば自然に人は集まります。人口減に備えて県内の町をコア化。計画都市をつくっていくことが重要。（女性／40歳代／山本地域）
- 近くに産婦人科1軒、市民病院1軒と、子どもを産む場所が少なく、選択できない。（男性／40歳代／北秋田地域）
- 地域によってマル福の年齢がバラバラで、中学校卒業までにして欲しい。（女性／40歳代／平鹿地域）
- 雇用を創り出し、若者を増やしたいのであれば、そもそも現存各市町村にて行っている婚活パーティーよりも一歩踏み込んで、カップルを成立させ結婚までのフォローもしてあげられる団体・企業をつくり、少子化対策を行っていく為の土台づくりから行って欲しい。（男性／30歳代／仙北地域）
- 少子化が国内でも特に深刻な秋田なので、子育てなどの福祉に力を入れ、日本の少子高齢化対策を率

先していくような県になって欲しいと思います。(男性/20歳代/秋田地域)

- 子育てのしやすさや日本一を目指して政策を行うべき。人口減日本一だからこそ、目立つチャンス。(男性/20歳代/北秋田地域)
- 私の家の周辺には幼稚園から大学までの学校全てがありますが、公園が少なく小さい子が道路で遊んでいて、交通量が多い時間帯はどうしても心配になります。私も小さいときは道路で遊んでいました。公園の数をもう少し増やすことができれば、子育ての環境も整うと思います。子どもの安全のためにもなると思います。(女性/20歳代/秋田地域)
- 子どもの人数が減少しているのは、色々な要因が重なったの事と思ってます。老人福祉サービスに力を入れる事は、とても良い事だと思いますが、子育て支援にもっと力を入れて欲しいと思います。保育園の延長時間、病中病後の支援、学童保育の充実等、母親がもっと仕事ができる様に支援して欲しいと思います。(女性/40歳代/秋田地域)
- 少子化のみ取り上げても、赤ちゃんが大人になり、老人になる一連の人生の流れを考えると、子どもを産むことだけを対策として取り上げることではいけないと思います。(女性/40歳代/仙北地域)
- 子育てと仕事の両立が都会に比べにくいように思う。田舎だからと言ってだれもが、子どもを預かってもらったりできる実家があるわけではない。移住してきて頼るところがない人には不便ことが多い。例えば子どもが風邪をひいたとき、保育園に預けられないが、その時すぐに預けられる病院と提携している公共の保育施設があると良いと思う。あと、県配布の資料を見ても〇〇の推進とか〇〇強化とか書いてますが、具体的に何をやってるのか分からなくてあまり参考になりません。(女性/30歳代/由利地域)
- 県外の児童生徒が県内の小中学校へ入学、転入することを推奨、その世帯への住居のあっせん、確保等への援助等優遇措置。(学力の向上を目指すことのほか、不登校、いじめ被害者等の児童生徒も対象にする里親制度のような一時預かりや、カウンセリングの実施等サポートも充実させる。)(男性/50歳代/仙北地域)
- 幼稚園等では子どもが3、4、5人など多く居る家庭が多く見られる。一方で「少子化」をよく聞く。結婚しない人、子どもが居ない家庭が多いのだろうか？(周りに30代後半で独身の人が割と居る)結婚することを推進・促進し、子どもと生活する楽しさを伝え、子育て支援があることをよく周知すると良いように思う。(男性/40歳代/秋田地域)
- 私が子どもを産んで、仕事に復帰した際、毎日がハードで大変な日々でした。会社では、「子どもがいるから」と見てくれますが、正直、もう一人！！と思える余裕がありませんでした。両親は健在なので、預かってもらうのは可能ですが、いない人たちは大変だと思うので、秋田県で色々考えていただきたいです。また、私の会社でも未婚の方が大変多くいるので、それも少子化につながっていますよね。相手がいないと子どもも授かれませんか…。(女性/30歳代/秋田地域)
- 秋田県に嫁ぎ、3人の子を産み育てているところです。横手市は出産については大病院も個人病院も選べるほどの数があり、とても恵まれていると思っています。子育てするのも、実家(東京)に比べて周りの人達がやさしくて恵まれています。学校も、先生方が一生懸命で、子どもたちも親バカかもしれませんが、まっすぐ育っていると思います。みんな秋田にきて子育てすればいいのに。見栄のための衣食住や習い事や塾代にお金使わなくても、みんないい子に育っていくよ！！と全国のみんなに教えてあげたいと思います。(女性/40歳代/平鹿地域)

- このまま少子化が進んでしまい、子どもの少ない社会が定着してしまうと、一組の夫婦が産む子どもの数が当然減ってしまいます。「スポーツ立県あきた」どころか、小・中・高校生の学校の部活動などに大きな影響が出ることは目に見えています。様々な角度から検証していくことが、当面の課題だと思います。(女性/10歳代/北秋田地域)

4 新たな地域社会の形成

- ボランティアをしていますが、皆さん高齢の方が多く感じます。生活の大変さもあり、若い世代の地域への関心や、協力的な行動が薄れているように感じます。若い人が一つになる元気とまとめる力が不足しているのではないのでしょうか。少子化対策も、そのような場での出会いや、相手への信頼という点で大事だと思います。地域で出会い、子どもを育てる環境づくりを求めます。(女性/30歳代/秋田地域)
- 高齢化が進む中、また雪国秋田にとって雪との戦い、一人暮らしは深刻である。高齢者が安く集団で住める住宅と、近くに田畑や商業施設があるなどの環境づくりと、そこで働く若者たちの雇用確保ができればよい。(女性/50歳代/平鹿地域)
- 国内留学を推進させ、小・中学校の生徒を受け入れ、地域で盛り上げていく。(男性/50歳代/鹿角地域)
- 年をとっても通院、買物などが徒歩または、公共交通機関を使ってできるような町であって欲しい。秋田は人口減少・高齢化が全国よりも早いスピードで進むと思うので、それをマイナスに捉えるのではなく、日本全体のモデルケースとなるように「年を取ることはいいことだ!」と思えるような戦略を練って欲しいです。これからは成長、発展を目指すのはやめてもいいと思います。(女性/40歳代/仙北地域)
- 竿燈や伝統芸能など、昔ながらの行事は良いと思うが、もっと若い人達から一般の人までが気軽に参加できる、体感型のイベントを行えば楽しそう。(男性/20歳代/秋田地域)
- 身近な場所には歩いて、又は自転車で行くという環境づくりを進めて欲しい。健康づくりや環境対策にもつながる。買い物時に徒歩、自転車や公共交通機関を利用した際のポイント付加や、車道だけでなく歩道、自転車専用道などの整備。しまなみ街道のように、自転車を活用した観光や、自転車関連企業の誘致など、現在の車中心の社会から、車を使わなくても暮らすことが選択肢の1つになるような地域づくりを、秋田がモデルとなって発信して欲しい。(男性/30歳代/秋田地域)
- 新しい家族形態、例えばシェアハウスなどは空き家対策にもなると思います。また、個人の得意としていること(コンピューター・保育関係・ガーデニングなど)を地域に生かしていける社会を作っていけたらいいなと思います。(女性/50歳代/雄勝地域)
- 公共交通機関が十分でない本県においては、車は必要であり、高齢者が“足”として運転している。高齢になると、交通事故をおこすリスクも高まり、本人も家族も不安である。地域によっては乗合タクシーやバスを実施しているところもあるようだが、十分とは言えない。高齢者に“やさしいまち”として、デマンドバスの運行により通院や買い物ができる体制があるとよい。(女性/40歳代/秋田地域)
- 「少子高齢化」に伴い、旧来の地域社会が壊れたことは、全国共通の問題だと思います。項番4のタ

イトルが“再生”ではなく“新たな”となっている点に関心を持ちました。国の施策を待つのではなく、本県の自前で、「少子高齢化」に対応できる点は、本項番だと考えます。人口構成が変わっていることから、地域社会の“再生”は、国策等との連携、膨大な調整を伴います。できることから始める、という観点から現在の人口構成に沿った“新たな”地域社会づくりを支持します。一点、ご提案、あるいはお願いしたいことは、「社会的企業創生への支援」です。NPO等、社会的活動を目にしますが、それらの活動は補助金と寄付金に頼っているのが現状です。社会的活動を恒久化する一助として、「社会的企業創生」は有力な選択肢の一つだと考えます。(男性/40歳代/秋田地域)

- 結婚していない人たちに結婚したいと思わせるおせっかいイベントの設立とか、結婚している人たちが働きながら子育てしやすい環境づくりに社会を変えていけたらいいなと思う。それは、そこに住んでいる人たちの協力と支えみたいのものが関係あるのではと思います。例えば子育ても仕事も一段落した人たちの大きな励ましの輪が若い人たちの力になることができないかなと思っております。少子化対策も雇用も地域の人と人とのつながりから少しでも変えることができるかなと思っております。(女性/60歳代/由利地域)
- 人口減による学校統合が進み、ますます地域社会と地域に暮らす人々と、子ども達の距離が遠くなっている。もっと地域(地元)とのつながりを大切にしなければ、人口も増えていく要素は消えてしまうのではないか。(中央に流出する一方では)(男性/50歳代/平鹿地域)
- 高齢化社会になり、高齢者の仕事に対する取組、意識の高揚が必要です。60歳以上の高齢者の活躍をもっと助成した方が良い。特に農業等、農作物の生産販売に力を入れ高齢者の活躍のできる仕組みづくりをお願いします。自分も今その事を考えています。(男性/50歳代/秋田地域)

5 その他

- 高齢者福祉サービスについて。どの特別養護老人施設も男性の入居が、入所枠人数がかなり少ない為、困難となっています。父は今、車いすの生活で年々弱っていくのが分かり、介護する家族も辛いです。なるべく希望が叶う様をお願いします。(女性/50歳代/秋田地域)
- もっと全国に秋田を知って欲しい。もっと秋田をさらけ出して欲しい(PRがちょっとかたい)。市町村と遠い県は、遠い存在に感じる。もっと身近に感じられたらいいなと思う。(女性/30歳代/北秋田地域)
- 冬期間の道路除雪、毎年思っていますが、除雪だけでなく、排雪も行っていたきたい。県南の除雪を見習っていただきたいです。(男性/60歳代/秋田地域)
- 最低賃金を上げて欲しい。30代になって親と同居状態のパラサイトシングルなのが恥ずかしいと思っているけど、契約社員で手取り10万円しかないので、一人暮らしなんて車が必須な秋田では難しいし、貯金もできない。会社には未婚の同年代男性が数人いるけど、年収が低すぎて結婚しても相手を養えないので、あきらめていると言っていた。(女性/30歳代/山本地域)
- 何しろ引っ込み思案の秋田県人を、何とか外に連れ出すイベントがたくさんあればいいのではないのでしょうか。もっとはっきりとイベントカレンダーのようなものがあれば、分かりやすいです。(男性/40歳代/秋田地域)
- 秋田県の場合を知ってもらおう(知らない人が多い)。秋田の食の魅力をもっとアピールし、大曲の花火、

男鹿温泉、田沢湖、角館、その他観光の推進を図り、県外からの観光客を増やす対策→お土産店の内容充実と活発化を図る（いぶりがっこしかないかなという感じです。秋田の食材を使った、おしゃれなスイーツなどいいかしら）。秋田美人をもっと売り込む→まず秋田県を知ってもらう。マスメディアを通して秋田の女性の素晴らしさをアピール（テレビ、映画など秋田のロケをアポできないか）（女性／50歳代／秋田地域）

- 高校生まで秋田で生活をし、大学は東京都内の学校に通いましたが、若者が秋田を離れる理由が少なからず分かるような気がしました。自分のやりたい仕事、やりたい目標、叶えたい夢…の実現が秋田県にしているとできないのかなと思います。まずは、人口が少ない、理解がない、お金がない等の暗い事ばかり。自分がしたい事、この先のニーズがある事について、サポート、支援があれば地元で活気があふれるのではと感じます。（男性／20歳代／鹿角地域）
- 健康寿命を延ばし、全国一医療費の少ない県になって欲しい。住んでいる人が満足できる環境であれば、人口も増えると思いますので、まずは県民の幸せを一番に考えて欲しい。（女性／40歳代／鹿角地域）
- 認定子ども園を増やすことで、待機児童の問題が良くなると思われがちだが、保育士の負担が増え、給料も上がらないのであれば、保育士も辞めていき、保育士不足という悪循環だと思う。待機児童を減らすためにも、まずは保育士の優遇を見直すべき。潜在保育士が周りにたくさんいて、保育士にならない理由は“賃金の低さ”が1番多い。同じく介護士などもそうだと思う。子どもにも年配者にも優しい秋田になって欲しいと思う。（女性／20歳代／秋田地域）
- 学校の統合により、1学級の人数が増え、少数人数学級にて学力が高いと言われてきた秋田の教育環境が、崩れて来ていると思います。学校を統合しても、1学級の人数を少なくする（クラスの数を増やす）など、できないものでしょうか。（男性／40歳代／雄勝地域）
- 秋田の歴史関連の施設をもっと魅力ある物にして欲しい。子どもたちが秋田の歴史をもっと身近に感じて、誇りに思えたら、秋田の魅力をどんどん県外へも発信していけるはず。（女性／50歳代／秋田地域）
- 総合病院なのに医者が少なく、休診病棟もあり、これから高齢者も多くなる時に、病気にかかる事も多くなり、不安です。（女性／60歳代／鹿角地域）
- 文化事業にも力を入れて欲しい。秋田県は冬季が長い所為かストイックに一か所でスポーツの練習をしたりするのが得意なのでは？だからこそスポーツが強いのだと思う。同時に、本にも興味がある県民性だと思う。図書館の娯楽小説の蔵書率は良いのでは？書店に居る若年層の数もそれなりに良いと思う。都市伝説の元を辿ると秋田にあるという話もある。そういうネタがあるのに使われないのは勿体ない。演劇についても、現在の文化事業でやる内容は古い。真面目一辺倒のものなんて、今更見る気もしない。そもそも演劇向きの劇場も無い。近々大きい文化施設が建つと聞くが、今ある市民劇団が本当に利用できるものになるのだろうか？誘致するばかりが演劇ではない。ホール1日借りるとしたらいくらなのか、市民の立場に沿ったものを作って欲しい。（女性／20歳代／秋田地域）
- 駅前地区（秋田駅）広小路、仲小路あたりの中途半端な建物の活用法を考えて欲しい。立地を生かしていない。アトリオン、なかいち、アルヴェなどの箱物は、きちんと運営を考えた方が良く思われる。美術館も中途半端。人を呼べる企画を。（女性／40歳代／秋田地域）
- 風力発電は世界でいろいろな問題がある。情報が伝わっていないところで、風力発電を大きく取り扱

うことはいかがなものか？世界に目を向け、問題を県民に知らせ、問題に取り組み、自然や人間の生活に支障がないようにして欲しい。プロペラ型の風力発電は再検討が必要ではないか？（男性／50 歳代／秋田地域）

- <あんべいいな秋田をもっとアピール>先日、県外へ旅行に出かけて来ました。ドラマなどで有名な海・岩を見て来ました。しかしガッカリしました。なぜか秋田の海・山・岩の方がずっとすばらしい事に気がついたのです。要は他県のその広告・宣伝がうまいと言う事だけです。もっと秋田をアピールすべし！（男性／60 歳代／秋田地域）
- 「秋田」を売り込む積極的戦略の見直しを。隣県山形県と比較することが多くなりましたが（子どもが山形在住）山形のサービスは秋田に真似できないほど良質です。初訪問でも分かりやすく、安価、親切。コメにしても「あきたこまち」が「つや姫、ひとめぼれ」に劣ってきたと感じます。本気での商品開発、そして売り込み先を見誤らないように戦略を見直す必要があると思います。「えふりこぎ」の県民性から、企画開発を東京のコンサルに任せてしまいがちですが、本気で秋田を売り込める人材は県内にいることを忘れないで欲しい。秋田のよさは秋田県民が一番知っています。（女性／40 歳代／秋田地域）
- 全国各地でその地域の体操（ご当地体操）を考案しています。特に弘前では腰、ヒザの体操が有名です。秋田県内でも健康体操で老人の交流、健康の維持等に利用できるようにして欲しい。また、健康立県として医療の費用が少なくてすむように工夫して欲しい。（男性／60 歳代／秋田地域）
- 秋田の売りとして「自然」「おいしい食材」「温泉」と言っているが、どうしても50代～60代の方をターゲットにしているような気がする。若い年代（家族連れ）も楽しめ、お金を使えるテーマパーク的なものがあれば、人は集まるような気がするが、冬の事を考えるとムリがあるかも！？（女性／40 歳代／秋田地域）
- 子どもに関わる事ですが、小学校の部活動がスポーツ少年団化してしまいました。私が小学校の時とは大きく部活動が変わっています。親が手助けしなければいけない事が多すぎます。仕事はもちろん、家庭の事情で帰りが遅いなどの理由で参加できないため、子どもにはあきらめさせました。昔よりも子どもが少ないからでしょうか。安心して学校生活を送り、部活動も昔のようなやり方を望みます。（女性／30 歳代／北秋田地域）
- 高齢化率全国1位で県内においても高齢化率40%を超えている市町村がある中で、高齢化対策についてあまり触れられていないのが残念です。県内における地域性をきちんと把握し、問題点を抽出、分析して県の対策につなげて欲しいと思います。独居老人の方には安全確認のためにも、訪問できる体制づくり。独居の人は話し相手がいなくて、時間をもてあましていくことが多く、傾聴ボランティアなどがいるとよいのではと考えます。民生委員の方でもいいです。（女性／40 歳代／平鹿地域）
- 既存のしがらみに惑わされず、県のためになる事であれば、大胆に取り組んで下さい。（女性／50 歳代／秋田地域）
- 県で様々な取組をしているようだが、政策が県民に伝わっていないように思う。果たして県政に、県民の声が反映されているのか、疑問を感じてしまう。また、県民の秋田県に対する意識を変える必要があると思う。秋田県には（都会にあるものが）“何もない”、と県民に思われがちのように感じる。でも、豊かな自然や美しい景観、歴史に文化など都会にないものがたくさんある。秋田県民の一人一人がその良さを実感し、生活したりアピールしたりすることが地方創生の第一歩だと思う。（女性／20 歳代／秋田地域）

- 熱い想いをもちながら活動している青年が沢山います。私は地域活動・青年会活動をしている1人ですが、もっと私達若者の意見を言える場を作ってもらいたいです。行政中心に物事を決める事がまだまだ多いので、各地区で意見交換会（誰でも意見が言える場）を作って頂けたらありがたいし、私も参加してみたいです。（女性／30歳代／山本地域）
- ここ3～4年、親の通院や介護を通じてさまざまな体験をし、高齢者福祉に関わりました。実際に直面してみて初めて福祉サービスのありがたさを知り、本人はもちろんのこと家族の不安も解消していただき、感謝で一杯です。父は認知症で、症状がひどい時はいろいろと問題をおこし、地域の方々にも支えていただきました。本人も家族もつらかったけれど、秋田にいたから何とかやってこれた気がします。同じ思いをしている方々をこれからも一層見守って欲しいです。（男性／50歳代／秋田地域）
- 自分の職業上、スポーツに接することが多いのですが、高校の大会や社会人の大会に参加するための環境や、競技成績を向上させるための環境の整備が「スポーツ立県」を掲げている割には、イマイチだと感じます。指導者（競技経験者）、トレーナーや大会期間中のケアを含めて、能力が足りないと思う。（男性／20歳代／秋田地域）
- 県外から秋田へ結婚を機に来ました。秋田はあきたこまちで知られる農業が盛んな県だと思っていました。でも、スーパーへ行けば秋田産の野菜・果物がとても少ないことに驚きました。他県から見える秋田のイメージは「農業」「食べ物がおいしい」これを売りにしなくては、長所が何なのかさっぱり分かりません。私は農業とは全く関係のない仕事をしていますが、農業にもっと力を入れるべきではないでしょうか。「あきたこまち」も最近是他県の他の品種に押されています。新しい秋田米ブランドも立ち上げる時期のように思えます。（女性／30歳代／秋田地域）
- 一部の人々が得する商品券や宿泊券の発行よりも、車や灯油など光熱費が非常に多くかかる秋田では、ガソリン代や光熱費の補助券のようなものを作った方がいいと思う。また最低賃金が安いので、企業には努力してもらいたい。せっかく秋田に帰って仕事に就いても、賃金が安く、家賃・車・ガソリン・光熱費にお金がかかりすぎて、とても結婚まで考えられないと子は言います。（女性／50歳代／由利地域）
- もっと教育にお金をかけて欲しい。具体的には、教職員の採用を増やす。優秀、有能な人材が10年以上秋田の教員採用試験に合格できず、やむを得ず他県を受け、すぐに合格している。教員の高齢化が進んでいるのに、社会や保護者の価値観、ニーズも多様化しており、対応し切れていない現実が続いている。若く気力、体力の充実している世代を投入することで、何より子どもに活力ある教育ができるはずで、そうした子ども達が将来秋田を支える。人口減にもつながる。（学校統合→減だから）少子化だから採用減は現実の学校（子ども）の実態に合わない。（女性／50歳代／由利地域）
- 「秋田の持つ可能性」と資料にありますが、そもそもそれによった事しかできていない様な気がします。自然や昔ながらの物も必要ですが、新しい物や事に挑戦する意識がない様に思います。他県がどうかでなく、秋田はこうだ！！と言う意識を県は持つべきだと思います。（男性／50歳代／雄勝地域）
- 特定の業種だけが恩恵を受けるようなことがないように。補助金・助成金の種類は沢山あるようですが、知っている人は少ないし、結果的には受けられない、または要件が厳しい。（男性／50歳代／仙北地域）
- いつまでたっても交通整備が整わない。特に県北は高速道路が繋がらず、2時間、3時間かかってしまう。鉄道・バスも年々不便になっていく。高齢化が進んでいるのに、交通が不便になっていくの

では困る。今すぐに対策をして欲しい。(女性/40歳代/秋田地域)

- 小・中学生の学力No.1 というものに子どもが振り回され疲弊しています。教員も疲れ切っております。そんなことより伸び伸びと感受性豊かに、色々な物を学んで欲しいと思っております。海外留学を経験している者からの意見ですが、小学生に対する英語教育は必要無いと思います。日本語をしっかり理解していない、日本語でしっかりと考えることができない子どもは、英語でも不十分な理解力になってしまいます。英語より日本語、秋田弁をしっかりと学ばせるべきだと思います。そして何より日本の文化を学ぶ事が必要です。海外で数年勉強し生活し、日本で学ぶべきことはそれであると痛切に実感いたしました。そういったことを学ぶ子ども達が、地方を創生していきます。日本の文化、秋田の文化を知らない者が、地方（ふるさと）を創生できるはずがありません。(男性/40歳代/秋田地域)
- 車が必要な郊外型のショッピングモールよりも、若者も高齢者もバスで気軽に出かけられる駅周辺の商業施設の充実、具体的には都市部にある人気のあるお店を税制の優遇などで呼び込むなど、ネットでの買物は限界があり、お店を眺め、食事をし、楽しい時間を過ごすことを望みます。秋田駅周辺にはお店により、年寄りだけとか若い人だけとか片寄りがあり、混然とした街の賑わいが無いと思われれます。(女性/60歳代/秋田地域)
- 若者が資格や技術を身に付ける設備が整うようになって欲しい。(男性/50歳代/秋田地域)

項番記載なし

- 人口減少で、これから先の地域のあり方が心配される中、秋田への県外からの移住の話を耳にすると、とてもうれしく思います。県外に就職した子どもたちもいずれ戻ってきたいと思えるような地域、秋田であって欲しいです。(女性/40歳代/由利地域)
- いったん都会に行っても、帰ってこれる場所を残して欲しい。職場だったり、資格を生かせる場所を使っておく事が大事だと思います。(女性/50歳代/山本地域)
- 私の住んでいる地域には秋田内陸縦貫鉄道があります。職員のみなさん全員が良くしようとがんばっています。もっと秋田県がそのがんばりを手助け、応援してもいいんじゃないかと思います。沿線には無くなっては困る人達がたくさんいます。SNSでは内陸線のファンもたくさんいます。(女性/30歳代/北秋田地域)
- 高校卒業後の就職先（正社員）が増えれば良いと思う。大学や専門学校へ行く為、県外に行くと、そのまま県外へ就職してしまうケースが多い。会社的にも若い社員がいると、活気にもつながる。元気のある秋田になって欲しい。(男性/30歳代/由利地域)
- 定年退職した人が働ける場所があったらいい。例えば農業の手助けや畑の忙しい時期に、男性でもパートとして数時間でも体を動かし汗をかいたら達成感はあると思う。あまりのんびりしていたら体調をくずしてボケてしまう。(女性/50歳代/仙北地域)
- 県内旅行中に、限界集落のような地域を見かけました。どんなにがんばっても、少人数で分散して生きていくには、秋田の自然は厳しいと思います。そうした人々がまとまるか集まり、又は、他都市部に近い地域で生活しやすいように、移住の援助や、住居の提供等のサービスがあればいいかと思えます。(女性/50歳代/秋田地域)

- 湯沢地区に日本一の巨大老人福祉施設を作る。(女性／60 歳代／雄勝地域)
- 新たな産業、雇用にもっと力を入れるべきだと思います。若い人が希望を持ち働ける仕事をいっぱい増やすべきだと思う。米を特産とする製品の開発、ブランド米の開発など「米は秋田」と言われるぐらい力を入れて欲しい。医療特にがんセンターを作って欲しい。(がん死亡率No.1 でありながら力を入れていないのでは…?) 最新医療を受けられるようながんセンターを作って欲しいです。(女性／30 歳代／秋田地域)
- 医療費や百円バスなど、お年寄りに対する優遇措置は多いですが、もっと働きざかりの人の医療費の補助とか、学生のバス代の補助とか、子どもや働きざかりの人達にも目を向けて欲しいです。(女性／50 歳代／秋田地域)
- 県と市町村がしっかりと手を取り、もっと情報を分かりやすく提供しないと、県が何がしたいのか、何をしているのかは、しっかり伝わっていかないと思います。せっかく良い政策をしても、伝わらなければ評価はされません。人は忘れる生物です。常に伝え続ける事で、県民は納得し、さらなる向上ができるのではないのでしょうか？(男性／30 歳代／由利地域)
- 学校統合で地域に学校が無くなることは、地域の疲弊である。少ない学校同士で連携を取り合い、共同学習することも他県の例にある。工夫が必要である。学校があれば家族での移住も可能である。(男性／50 歳代／雄勝地域)
- 地域の活性化、商店街の活性化は繁盛店の連携で達成する。景気回復で繁盛店の創生はできない。アイデアを買う姿勢を県の企画に期待する。誰が選抜するかも問題ではあるが。(男性／50 歳代／雄勝地域)

